

白鳩 (コード 3192)

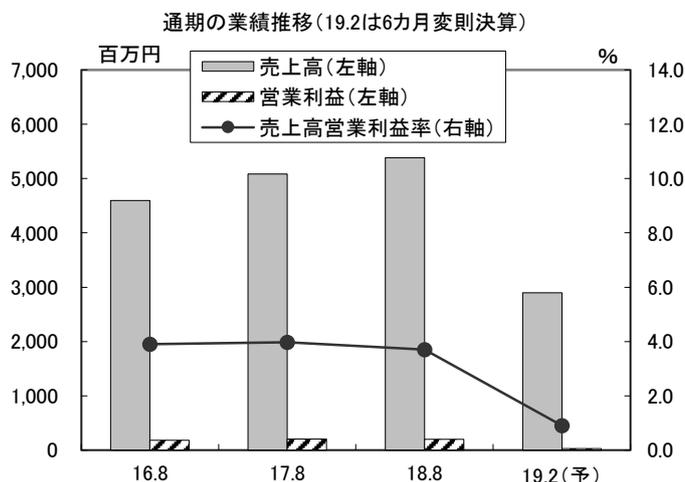
◆業績推移(非連結) (19.2より決算期変更。19.2予は会社側予想値)

決算期	売上高	営業利益	1株益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.8	4,595	179	26.8	8.0	96	▲999	918	154
17.8	5,083	202	30.3	9.0	74	▲29	93	292
18.8	5,384	199	22.3	6.5	1	▲43	158	409
19.2予	2,900	26	2.8	未定	-	-	-	-

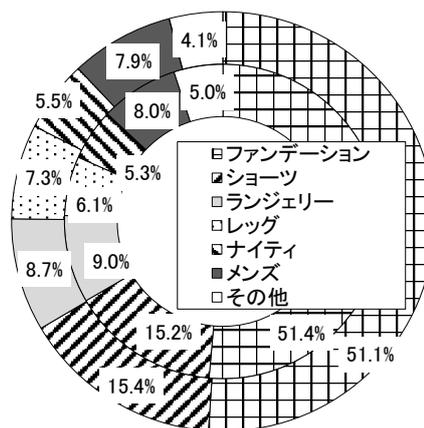
◆各決算期の第2四半期業績推移(非連結) (19.2は決算期変更のため表示なし)

決算期	売上高	営業利益	1株純益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.8	2,270	107	17.4	0.0	48	▲912	891	167
17.8	2,530	83	6.3	0.0	39	▲14	167	346
18.8	2,694	129	17.4	0.0	▲49	▲13	▲62	166

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



品種別売上構成比率 (内側が17.8、外側が18.8)



18年8月期の業績概況…18年8月期の業績は、売上高53億8,400万円(17年8月期比5.9%増)、営業利益1億9,900万円(同1.4%減)、経常利益1億8,200万円(同10.7%増)、当期純利益1億2,700万円(同8.8%減)となった。主力販路の本店、楽天市場での販売が拡大したほか、17年6月のポンパレモールへの出店が通期にわたり寄与するなど新たな販路が加わり、増収となった。ただ、インターネットでの販売業態における企業間価格競争の激化や、将来の強固な経営体制の構築に向けた適材適所への人財配置を積極的に行ったことによる人件費の増加などにより、営業利益は減益となった。経常利益については、営業外費用における支払手数料が急減したことなどによって増益となったが、当期純利益は、17年8月期に特別利益に計上された保険解約返戻金(4,100万円)が当期に無かったことなどにより、減益になった。1株当たりの年間配当金は6円50銭(17年8月期実績に比べ2円50銭減)となった。

サイト別の売上高については、売上構成比において主力(当期:49.8%)の楽天市場が楽天kaolaのけん引により26億8,200万円(17年8月期比11.1%増)に伸びたほか、Yahoo!ショッピングがヤフーのEC戦略拡大を受け5億5,900万円(同19.5%増)に、Wowma!もKDDIのEC戦略拡大により1億5,400万円(同29.8%増)に拡大。本店(自社サイト)については成長鈍化、アクセス数苦戦の中で11億5,700万円(同3.9%増)と健闘した。一方、Amazonは直販との競合及び白鳩掲載商品の見直しによって4億3,000万円(同15.1%減)に、海外サイ

トは天猫国際 (Tmall) の減収により 2 億 6,700 万円 (同 19.3%減) に落ち込んだ。

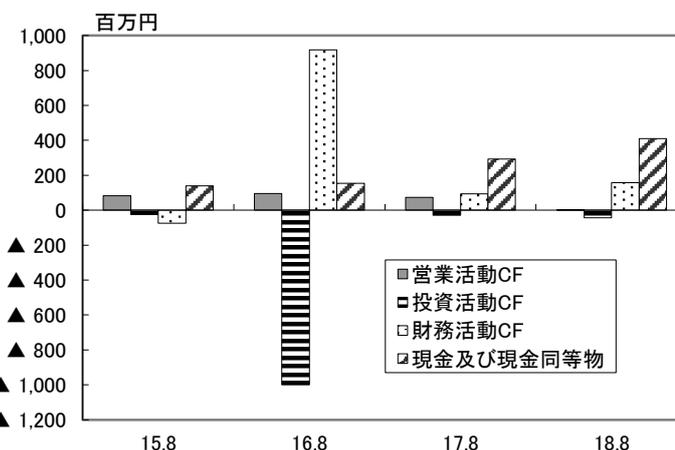
商品の品種別売上高では、ファンデーション 27 億 5,100 万円 (17 年 8 月期比 5.3%増)、シューズ 8 億 2,900 万円 (同 7.3%増)、ランジェリー 4 億 6,700 万円 (同 2.9%増)、レッグ 3 億 9,300 万円 (同 26.9%増)、ナイティ 2 億 9,700 万円 (同 10.3%増) などに伸びたほか、メンズも 4 億 2,300 万円 (同 4.0%増) に増加した。

取扱ブランド数が 181 (17 年 8 月期は 166) に増加するなど、品揃えの拡充・強化が進んだものの、17 年 8 月期に前年比 5.4%増となった新規顧客獲得数が同 1.1%減に鈍化したほか、年間購入顧客数に占める年 2 回以上の購入者の割合 (リピート率) は 20.6% (同 20.9%) に低下した。

また、PB・コラボ商品の売上構成比率が 20.6% (17 年 8 月期は 21.3%) に低下し、計画値の 25%にも未達だったが、売上高全体の増加によって売上総利益率は 39.8% (同 39.4%) に向上した。一方、ストック倉庫改装や新規事業開発等の投資に加え、自社一貫体制強化に伴う人員増、販促関連の費用拡大によって運営コストがかさみ、売上高販売管理費比率は 36.1% (同 35.5%) に上昇。売上高営業利益率は 3.7% (同 4.0%) に低下した。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物残高が 4 億 900 万円 (17 年 8 月期末比 40.1%増) に増加した。営業活動CFでは、営業活動による収入が 100 万円 (17 年 8 月期比 98.6%減) となり、税引前当期純利益が 1 億 8,200 万円 (同 8.1%減)、売上債権の増加額が 2,300 万円 (同 4.5%増)、たな卸資産の増加額が 1 億 1,700 万円 (同 32.0%減)、仕入債務の減少額が 3,500 万円 (17 年 8 月期は増加額 3,900 万円)、法人税等の支払額が 8,200 万円 (17 年 8 月期比 134.3%増) となったことなどによる。投資活動CFでは、投資活動による支出が 4,300 万円 (同 48.3%増) に増加し、有形固定資産の取得による支出が 1,800 万円 (同 260.0%増)、保険積立金の積立及び解約による差引支出額が 1,700 万円

通期のキャッシュ・フロー(CF)推移



(同 13.3%増) となったことなどによる。財務活動CFでは、財務活動による収入が 1 億 5,800 万円 (同 69.9%増) に増加し、長短借入金の借入れ、返済による差引支出額が 11 億 400 万円 (同 226.6%増)、株式の発行による収入が 13 億 2,400 万円 (同 165.3%増)、配当金の支払額が 4,300 万円 (同 43.3%増) となったことなどによる。

19 年 2 月期の業績見通し…19 年 2 月期 (決算期変更のため 6 カ月変則決算) の業績については、売上高 29 億円、営業利益 2,600 万円、経常利益 2,600 万円、当期純利益 1,800 万円の見通し。1 株当たりの年間配当金については未定となっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。